



静岡商工会議所、静岡国際貿易経済協議会 アブダビ&ドバイ産業経済・港湾事情視察会

アラブ首長国連邦(略称:UAE=United Arab Emirates)と聞いて、何を連想されますか?

世界一高いビル、ヤシの木の形をした人工島、巨大なショッピングモールなどの近代的な建物、施設や砂漠等がよく紹介されますが、それらはこの国のほんの一部に過ぎません。

静岡商工会議所では、静岡国際貿易経済協議会(通称:SITEC)会長・神谷木材(株)会長(団長)と共催し、11月7日(火)〜12日(日)の6日間、UAEのアブダビ、ドバイへの視察会を総勢16名で開催しました。

成田空港から約12時間、深夜にアブダビ空港に到着。翌日、バスで約2時間かけてドバイ市内へ。最初に世界最大のビル「バージュ・ハリファ」に登り、ドバイ市内を見学後昼食。(写真①)

午後からはドバイ最大の港である「ジュベル・アリ・ポート」を視察。ドバイ港湾局の方から港湾の現状を伺いました。コンテナ取扱量はシンガポール、香港に次いで世界第3位。中東、ヨーロッパ、アフリカ、西アジアのハブ港として年々取扱量が増え、更なる港の増設も行っています。

続いて鈴与(株)の中東事務所(倉庫)を訪問。この倉庫では日野(株)のアフリカ、ヨーロッパ、中東向けの自動車部品を取り扱っており、小山所長より説明をいただきました。(写真②)

翌日はJETROドバイ事務所を訪問し、田辺事業部長、西浦次長からドバイの経済事情、日系企業の進出状況等の話を伺いました。(写真③)

UAEは、1971年(1892年から英国の保護領)に独立し、アブダビ、ドバイ、シャルジャ、アジュマン、ウムムアル・カイワイン、フジャイラ、ラス・アル・ハマの七つの首長国で構成された連邦国家であり、近年は政治(首都)のアブダビ、経済のドバイと変わっています。アラビア半島のペルシア湾に面し、東部ではオマーン、南部と西部はサウジアラビアと接しています。

UAEは日本にとって世界第2位の石油供給国であり、日本からは自動車などの輸送機械や一般機械を輸出するなど、その経済的な結び付きは深く、UAEに進出する日本企業は年々増えており、2014年には300社を超え、在留邦人も3500人に拡大しています。

国内全体で産業の多様化を推進し、石油採掘による経済依存から、中東における金融、流通、観光の一大拠点となることを目指しています。2020年には中東初の開催となる「ドバイ国際博覧会」が開催されます。

3日目はドバイ市内を視察しました。世界最大のビル「バージュ・ハリファ」、ドバイクリーク(運河)を「アラ」(という渡し船で渡り、ゴールドとスパイスの市場へ。昼食はドバイで最も有名な7つ星ホテル「ブルジュ・アル・アラブ」のランチを堪能しました。

その後、バスにてヤシの木型の人工島に完成したホテル「パーム・ジュメイラ」を見学。ホテルへの帰りには、世界最長の無人鉄道である「ドバイメトロ」の試乗も体験しました。(写真④)

夕食はアラブの伝統的な木造船「ダウ船」にてディナークルーズを楽しみました。(写真⑤)

4日目は世界最大の「ドバイモール」を視察し、そのモールの中にある世界最大の水族館も見学しました。(写真⑥)

午後からは4WDでサファリへ。砂漠を駆けめぐりキャンプでバーベキューのディナーを堪能。砂漠に沈む夕日に感動しました。(写真⑦)

砂漠のイメージが強い中東ですが、ドバイ市内には世界有数のゴルフ場や室内スキー場もあります。5日目はバスでアブダビへ。途中世界一傾いているビル「キャピタルゲート」を車窓より見学。(写真⑧)

UAEの昔の生活を知る「ヘリテージビレッジ」を見学し、横幅1km、114ものドームを持つ「ゴージャスな」王宮ホテルにて昼食。(写真⑨)

UAE最大の「シェイク・ザイド・モスク」を視察しました。(写真⑩)

「フェラーリワールド」で楽しんだ後、夕食後アブダビ空港へ。アブダビ空港から一路成田空港へ。午後無事日本へ帰国しました。

静岡国際貿易経済協議会では毎年海外視察会を実施しており、今回で10回目。今までは韓国、中国をはじめタイ、ミャンマー、インド、インドネシア、ブルネイ等々東南アジア諸国への視察を実施してきました。今回初めて中東への視察会を企画し、中東を体感でき、大変有意義な視察会となりました。

